

# 鹿大マガジン

KADAI JOURNAL

鹿大広報

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

特集

鹿児島大学のIR (Institutional Research)  
～経験からエビデンスベースへの  
変換による大学改革～

動画配信中!!  
今回は「指宿植物試験場」



鹿大マガジン movie  
One Minute

NO. 217  
2021 SUMMER

# 鹿児島大学のIR (Institutional Research)

## ～経験からエビデンスベースへの転換による大学改革～

平成16年度の法人化以降、各国立大学法人においては、学長をリーダーとした自らの創意工夫による大学づくりが求められています。本学では「進取の気風にあふれる総合大学」を標榜し、強みや特色を生かした学術研究・教育、地域社会・産業界との連携、地域人材の育成など、さまざまな取り組みを推し進めてきました。

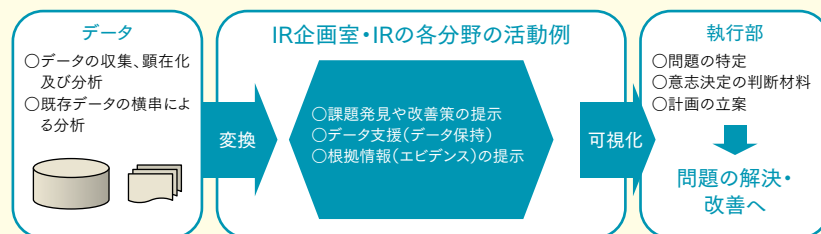
さらに現在、将来にわたって持続可能な地域社会の実現に貢献する「知（地）の拠点」として機能し続ける大学を目指し、教育、研究、社会貢献、財務等、大学の全ての分野を包括的に扱う「全学的IR (Institutional Research)」の充実に注力しています。IRの目的は、経営支援のほか、教育研究の質向上、学生支援、学内資源の適正配分など多岐にわたります。

本号では、現在の本学におけるIRに関する主な取り組みについて紹介します。併せて、わが国有数のIR研究者である山形大学学術研究院・浅野茂教授（※クロスアポイントメント制度適用による鹿児島大学IRセンター特任教授兼任）に、国内外の大学におけるIR事情や活用事例、課題などについて伺います。

■ IR: ある特定の目的に沿って情報を収集し、それらを加工・統合して分析し、計画立案や意思決定を支援するために展開される活動の総称（2016, 浅野茂）。本学においては第3期中期目標<sup>\*1</sup>・中期計画<sup>\*2</sup>（平成28～令和3年度）でIR体制の機能強化を謳っており、平成29年度にIRセンターの全面的見直しを行うとともに、企画立案を行うIR企画室が新設されました。収集、分析されたデータは、戦略的な大学運営のための意思決定や計画策定の一助、あるいは教育研究活動の改善に資するツールとして活用し、問題の解決・改善を図ります。

※1: 学長のリーダーシップの下で大学の機能を最大化し得るガバナンス体制を構築するとともに、学内資源を戦略的かつ機動的に配分する。  
 ※2: トップダウンによる戦略テーマの決定や政策立案のための支援機能を強化するために、平成27年度に設置した学長戦略室を中心として、18歳人口動態、入学状況、在籍状況、卒業・就職状況、研究、社会貢献・国際化の状況、他大学の状況等のデータを戦略的に収集・蓄積・解析を行い、IR機能の充実に図る。

### IRのイメージ(データを価値ある情報に変換する役割)



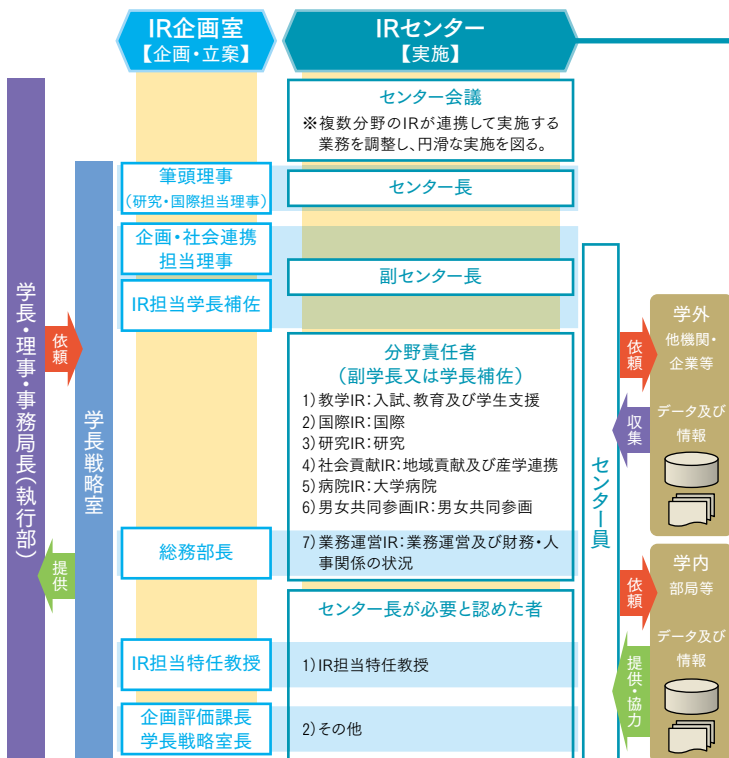
鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学を目指しています。特に来年度からの第4期中期目標・中期計画期間においては、学長のリーダーシップの下、持続可能な社会の実現に向けて、「地域活性化の中核的拠点」としての機能を強化しつつ、「進取の精神」とグローバルな視点を有する人材の育成を目標とする大学改革を進めて参ります。

今後、大学改革を着実に進めていくためには、大学の戦略に資するデータをもとに意思決定を行う必要があります。そのために欠かせない活動がIR活動です。鹿児島大学ではIR体制の機能強化を図るため、平成29年度に企画立案を行う「IR企画室」を新設するとともに「IRセンター」の全面的な見直しを行いました。今後はIR企画室とIRセンターが中心となって、各種のデータを蓄積し、大学運営に有効な活動を展開して参りますので、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。



鹿児島大学IRセンター長  
**馬場 昌範**  
 筆頭理事  
 (研究・国際担当理事)

IR企画室(企画・立案)とIRセンター(実施)



【IR企画室の業務】

- 1) 大学運営に係る意思決定等への支援に関する企画立案
- 2) 情報の収集、調査、分析に関する企画立案
- 3) その他IRに関すること

【IRセンターの業務】

- 1) 大学運営に係る意思決定等への支援
- 2) 情報の収集、管理、調査、分析及び活用
- 3) 本学の組織の活動状況に関する評価の支援
- 4) 中期目標・中期計画の策定及び自己点検・評価活動の支援
- 5) 各部署等が行う分析等の支援
- 6) その他センターの目的を達成するために必要と認められる事項

IRセンター体制・分野関係図

センター長	センター長:筆頭理事(研究・国際担当理事)									
副センター長	企画・社会連携担当理事、IR担当学長補佐									
分野	全ての分野IR	教学IR	国際IR	研究IR	社会貢献IR	病院IR	男女共同参画IR	業務運営IR	全ての分野IR	
センター員	IR担当特任教授	学長戦略室長 企画評価課長	共通教育センター	高等教育研究開発センター	グローバルセンター アドミッションセンター	産学・地域共創センター	附属病院事務部長	男女共同参画推進センター	総務部長	学術情報基盤センター長

5月1日付でIR担当学長補佐を拝命いたしました。私は鹿児島大学に着任してから30年目になりますので、比較的長く本学の変遷を見てきているかもしれません。この節目の年に重要な任務をいただき、このこと、身の引き締まる思いでございます。本特集記事の内容にありますように、IR活動は教学をはじめ、国際、研究、社会貢献、病院、男女共同参画、業務運営と、その対象は多岐にわたっています。学長補佐役としましては、各担当部署を走り回って、様々なIR活動を有機的に連携し、大学全体の改善に役立てることを目指します。単にデータ収集と分析結果の提供に終わらず、分析結果を活用していただくことが肝要と思っております。この活動は、本学の教職員のご理解とご支援がなければ成し得ませんので、どうぞ宜しくお願いいたします。



鹿児島大学IRセンター  
副センター長  
**北原 兼文**  
IR担当学長補佐

私は生来、あまり運動を好まなかったためか、未だに骨折も入院も体験していません。ただ、若い時分の無茶な飲酒と喫煙が祟り、20代初めの胃潰瘍と30代後半の慢性喘息による通院で時間を無駄にしました。それで50代以降は定期健診のみでなく、年1回の人間ドッグを欠かさないようになっています。今のところ、メタボを除いて大きな病因は見当たらず、安心して業務に取り組むことができている。胃壁の病痕だけは毎回確認しており生活上の戒めになつています。IRも同じことだと考えます。大学の教育研究活動の健康状態を自らが知り、地域社会へ対しての責務を十分に果たしているか、そして避けて通れない少子化に際して、南日本の雄として存続し続ける潜在力を維持できているか等の自己分析に他なりません。その基礎となるデータの充実に向け、構成員それぞれが積極的にコミットする姿勢が必要です。



鹿児島大学IRセンター  
副センター長  
**岩井 久**  
企画・社会連携担当理事

# 高等教育研究開発センターによる「教学IR」

本学におけるIR活動において、とくに先行的な取り組みを推進しているのが高等教育研究開発センターです。同センターでは、全学の教育機能を向上させることを目的とした「教学IR」を実施しています。学生調査で得られた回答情報や教学データ（成績や履修状況等）を収集し、教育活動や学生の学習状況に関する分析活動を進めています。定期的実施する6つの調査に加え、昨年度は状況に対応し、緊急的アンケートを実施しました。

1

## 新入生アンケート

入学時の学部生に対し、本学志望の動機や高校時代に参加した本学の広報活動、卒業後の希望進路等を尋ねることで、新入生の特性の把握、本学の広報活動のあり方に関する検討を行っています。

2

## 授業アンケート

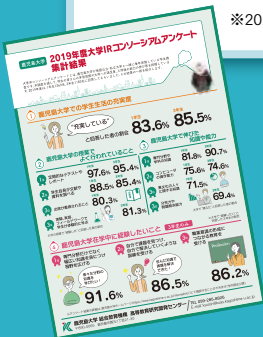
全学部生および大学院生を対象として毎年・後期末に実施。各授業における理解度や授業に対する意見・要望等を把握することで、授業の改善や質向上につなげることを目的としています。

3

## 大学IR コンソーシアムアンケート

一般社団法人大学IRコンソーシアム\*に本学が加盟した2012年以降、全学部の1年生および3年生の学習状況に関わるデータを収集。同コンソーシアムに加盟する他大学のデータとの比較を通じ、本学学生の学びの実態を分析しています。

\*2021年5月現在 59校加盟



4

## 学生生活実態調査

学生の意識および学生生活の実態を把握するための調査。学生の経済状況、住宅・通学状況、学習状況、就職希望、悩みなど、回答をもとに現状を分析し、学生生活支援に関わる検討につなげています。昭和37年より継続。

5

## 卒業予定者アンケート

在学中に修得した事柄について教育環境や施設に対する満足度とともに測定し、学生の成長を把握するため2019年度より実施しています。全学的な結果分析を当センターで行い、そのデータを各学部で活用することを目的としています。

6

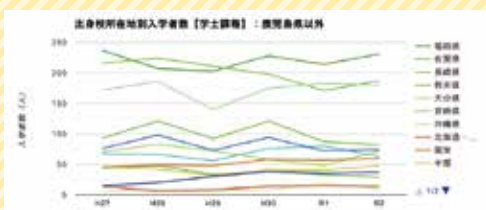
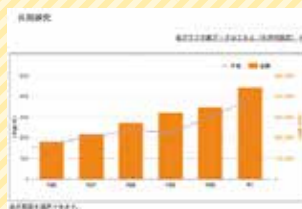
## 卒業生アンケート

卒業後3年経過した学部卒業生を対象として、就いた仕事のほか本学での教育をどのように感じているか等把握する調査を行っています。調査結果は、本学の教育のあり方を検討する重要な資料として活用されています。

7

## 遠隔授業に関する アンケート(2020年度)

2020年度、遠隔授業に関するアンケートを実施。6月に1年生、前・後期末には全ての学部生、大学院生を対象に行いました。勉学・研究、経済面、精神面など状況を総合的に把握する上で有意義なデータが得られ、改善や学生への支援を全学に提言する報告書を作成しました。



↑「鹿児島大学 Fact Book」はこちら

IR活動の一環として、過去数年にわたる既存の情報を活用し、その推移・割合をグラフで可視化したデータ集が「鹿児島大学 Fact Book」です。使用している基礎情報は、文部科学省が公表している「学校基本調査」や、鹿児島大学が発刊している「鹿児島大学概要」など公表済みのデータです。本学ホームページにて提供しています。ご利用ください。

鹿児島大学  
Fact Book

「鹿児島大学 Fact Book (https://www.kagoshima-u.ac.jp/ir/)」より

「IRから見えること、生みだされるもの」

教学IRを通じ全学のIR活動を牽引する高等教育研究開発センターの伊藤奈賀子センター長に、これまでとこれからの取り組みについて伺いました。



高等教育研究開発センター長  
伊藤 奈賀子 准教授

これまでにIRによって得たデータが、教育の質向上に活用された例はありますか？

一般社団法人大学IRコンソーシアムのアンケート結果から、希望通りの授業を受講できなかったという経験のある学生が、他大学に比べかなり多いことがわかりました。希望の集中する講義では教室のキャパに応じて抽選による選考が行われることから、一朝一夕に解消できる問題ではありませんが、課題を具体的に認識すること

ができたことは有意義でした。

また同アンケートによって、レポートの書き方がわからない、自信がない、プレゼンテーションのやり方がわからない、と感じている学生も他大学に比較すると圧倒的に多いという傾向が見えました。これは大学としてのケアが早急に必要だということでも共通教育改革に取り組み、現在は必修科目となっている「初年次セミナー」、II」の開設につながったという実績があります。

調査結果を、教育の質向上へとつなげた例ですね。

教員は授業単位では学生を見ているですが、1年、



2年という長いスパン、あるいは全体像を見る場はありません。アンケート結果は学生がトータルに考え、答え

てくれるものなので、日ごろの思いや行動、実情を把握する上では非常に有意義です。対面授業が開講できなかった昨年度は、遠隔授業に関するアンケートを実施しました。全国的に報道はなされては

いましたが、友達ができない、人と話ができない、ということに対する苦痛や不安が本学の学生にも非常に強く出ているということがわかりました。一方、自由記述の中で、遠隔授業への率直な感想も数多く寄せられました。そこで、

学生に講義が高く評価された学内の先生方をお願いして、遠隔授業に関する教員向けセミナーを10回開催しました。昨年の状況は教員にとっても初めての体験でしたので、オンライン



ン授業に長けている先生のノウハウを共有することで、全体の底上げにつなげていこうと。オンデマンドで配信することで、時間と場所を問わず視聴できるセミナーが実現できたことも収穫でした。

状況に応じた迅速な取り組みですね。

コロナ禍によって一番影響を受けたのは、やはり教育の部分です。次の取り組みとして、本年度は、イレギュラーな1年間を過ごした学生の声を教職員が聞く場としてのセミナー開催を企画しているところ。コロナ禍で学生が失ったものを、今後3年または5年のうちにどこまでリカバリーできるかわかりませんが、学生が本当に思っているところを自由に語ってもらい、大学はできることからやっていくという事です。

調査やアンケートは実施して終わり、ではなく、最終の目的である教育改善にどうやってつなげていくかというところが肝心です。その部分は、学生により身近な存在である各学部・各研究科の取り組みにかかっている部分も大きいと思います。

国内有数のIR研究者であり、本学と山形大学とのクロスアポイントメント協定により2020年5月、本学IRセンターに着任された浅野茂特任教授に国内外のIR事情やIRを推進する上でのポイント等について伺いました。本学の第4期中期目標・中期計画期間の取り組みへの指針として貴重なご意見の一部をご紹介します。

## 「エビデンスに基づいて判断する文化の醸成へ」



鹿児島大学IRセンター  
浅野茂 特任教授

歴史があるとも言えます。ただ、大学経営にしっかりと活用するという意味でまだ確立されていない面があるので、現在、高度化していくというフェーズにあるのだと捉えています。

### IRを推進する上での重要なポイントは？

### 世界と日本の教育機関におけるIRの現状を教えてください。

日本の大学でIRに関心が寄せられるようになったのがおよそ15年前、国の政策として補助金等が導入されるようになったのはここ5年くらいのことです。各地の大学において先進的取り組みが進められています。50年を超える歴史があるアメリカをはじめ諸外国と比較すると、まだ組織としての継続的活動として定着しているとは言い難い状況です。

### 国内の先進大学の成功事例や具体的活用例を教えてください。

国立では東京大学、九州大学、茨城大学、そして当山形大学。私立では明治大学、立命館大学、上智大学などが比較的バランスよく、全体的に効果的な取り組みを継続しているという印象があります。トピックによっては特徴的な取り組みを進めている大学もあるのですが、情報は学内に限定して公開されることが多いので、実情を学外から正確に把握することはなかなか困難です。

活用状況に関しても把握しにくい面があります。というのは、「活用」という言葉には、状況が目に見えて改善されているというイメージが付きものですが、現状を適切に判断できる状態になっていくだけでも「活用」と言えるのではないのでしょうか。日本の大学では学校基本調査などの基礎情報は、従来、収集され使われてきているので、そういう意味では長い

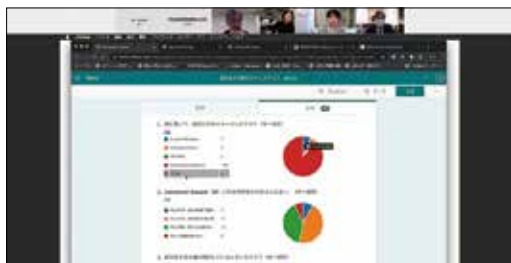
「エビデンスに基づく判断をしていく文化」の醸成が求められます。大学経営や教育、研究を進めていく上で、エビデンスの重要性について学長、理事をはじめとする学内の構成員が認識することがまず前提としてあります。ただ、データより先生方の経験や勘の方が適切な判断を促す場合もあります。一定数の人が納得する環境を作るための材料としてエビデンスを捉えながらも、それを絶対視するのではなく、あくまでもエビデンスを参考にして判断する、という文化を醸成することが大切です。

情報を可視化する上では、何のためにデータの収集、分析を行うのかということを理解しておく必要があります。情報収集はあくまでも手段であって、目的ではないということ。そうはいっても、最近の調査によると、日本の大学ではまだまだIR担当者が人事や財務、学生データを思うように使える環境にないので、アクセスでき

る仕組みを整備することがまず重要です。秘匿度の高い情報を扱うことになりまますので、大学として各種情報を安全に格納できる基盤を整備することは言うまでもありません。

並行して、IR担当部署に「学内情報の精通者」と言える人材を配置、育成していくということが求められます。例えば学務系の部署、研究支援関係の部署、各セクションではそれぞれのデータに関する理解があっても、何かと組み合わせた集計や分析を視野に入れると、分野を越えた知識が必要です。ある部署からの相談に対し、たくさんの「引き出し」から適宜引き出し、組み合わせで提案する、「水先案内人」のような情報の精通者が配置されることが理想ですが、

まだ日本では多くないというのが実情です。人事異動という壁もあり、専門に特化できる人を長期的に育成しづらいという問題があります。広範囲の知識も必要ですので、ある程度の異動は必要でしょうが、人事異動からいったん外す仕組みも必要と思います。山形大学ではIR担当の一人が専門



オンラインで開催した令和2年度鹿児島大学IRセミナー

員として通常の人事ローテーションから外れ、長期スパンで業務に携わることが可能になっています。とは言え一人体制なので、今後、人材育成が課題としてあります。人材不足を補う上でも、統計的素養を有する学内の先生方との連携を作っていくというのも一つの考え方だと思えます。

**第4期へ向けた鹿児島大学の課題を教えてください。**

第3期までにIR部署、IRセンターの機能と体制図が整理されましたので、次の課題は、規則に落とし込み、学内情報を収集、活用する仕組みを作ることが急務です。規則が作られていないと学長、理事の交代を機にIR部署の存在意義や活動の意義

を見いだせなくなることもあります。規則を設けることでIR業務を継続的に推進できる環境を維持、整備することが重要です。また、既に構築されたIRセンターの体制を実質化していくためにも、特に学内関係の分野との関係強化し、役割分担も含めて検討する必要があります。

**山形大学におけるIRの取り組みと活用例**

われわれの業務は、学校基本調査、大学基本情報等のデータの活用と可視化、学内の情報収集とレポート化などです。質保証の観点から、各学部・大学院における教育目標・カリキュラム作成、教育についての評価を可視化する「プログラム・レビュー」の作成も行っています。今後、コストを意識した教育プログラムの継続的提供、効果的な教室配当・時間割作成等へ向け、AIの導入も含めて試行中です。

山形大学のIR活動を支える基盤にあるのが「IR情報データベースに係る情報保護管理規程」「IRシステムマネジメント規程」という二つの規程です。二つの規程があることで、学長の責任と権限の下でIR部門に権限が付与され、データを分析に活用できるようになっています。情報収集と分析、データ提供までがIRの役割であり、データを活用し改善していくのは大学の責任であり、それらの活動をIE (Institutional Effectiveness) として位置づけ、図式化して全学に示しています。

山形大学の特徴的な取り組みとして、出席情報の活用があります。地方の国立大学の多くは第2志望以下の入学生が一定数いることから、学生のモチベーション低下による留年・退学という懸念があります。山形大学で

は10年ほど前から、出席情報と履修科目登録、課題提出状況等のデータを判断材料として、モチベーションの下がった学生を早期に特定、介入し、学習意欲の高揚を促しています。これまでの分析では、1年生のうちに早期介入することで、留年・退学せずに卒業できる率が上がることがわかっています。



鹿児島大学IRセンター 浅野 茂 特任教授

- 平成18年 3月 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程修了 経営学博士号取得
- 平成18年 4月 神戸大学企画評価室 大学機関別認証評価、国立大学法人評価等の第三者評価、神戸大学情報データベース管理・運用担当
- 平成25年10月 独立行政法人大学評価・学位授与機構において大学評価に関する業務従事
- 平成27年 4月 山形大学学術研究院教授就任、企画評価IR業務従事、初年次セミナー授業担当
- 令和 2年 5月 クロスアポイントメント制度により鹿児島大学IRセンター特任教授就任 (IR活動に対する助言、提言。大学機関別認証評価等の大学評価へのサポート等)



鹿大・法文学部で保護された愛猫



自分の歯を大切にしよう!

### 上顎骨の形態変化(有歯顎と無歯顎)



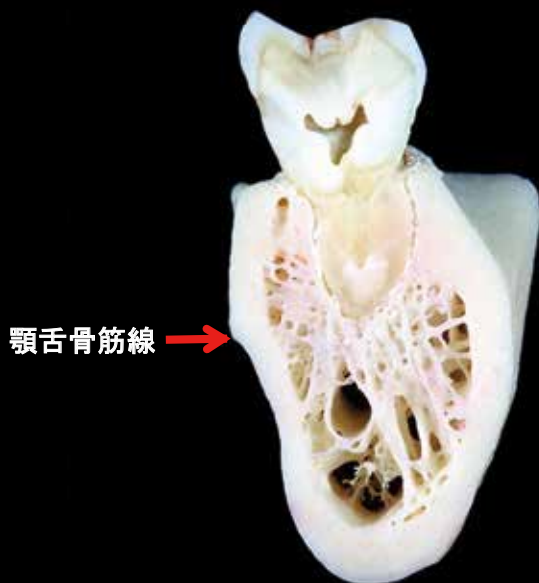
有歯顎



無歯顎

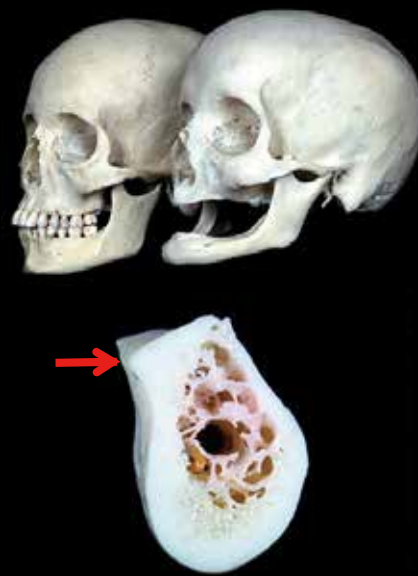
※上顎骨の**歯槽突起**(○部分)は歯の喪失に伴い最大で口蓋突起の高さまで**吸収**される。

### 下顎骨の形態変化(有歯顎と無歯顎)



顎舌骨筋線

有歯顎



無歯顎

※下顎骨の**歯槽部**は歯の喪失に伴い最大でオトガイ棘, 顎舌骨筋線の高さまで**吸収**される。



## 歯と骨を大切にしよう

「口と顔でのコミュニケーション」  
「顔の老化とミトコンドリア」、「矯正歯  
科治療って何？」など、知ると日常生活  
にも役立つような興味深いテーマが並  
ぶ共通教育科目が「口と顔の科学」だ。  
複数の歯学部教員が歯科医師としての  
経験を生かし、歯や口、顎などの健康に  
関する基礎知識や最新のトピックなど  
をテーマに進める。本号では、解剖学  
者・田松裕一先生による「歯の喪失に伴  
う顎骨の形態変化」のオンライン授業  
の一端をレポートする。

### 歯が無いのに、 入れ歯も入れられない!?

「虫歯や歯周病、あるいはケガなど、な  
んらかの原因で歯を失うと、歯が植わっ  
ていた顎の骨の形も変わってしまうとい  
うことをよく見てほしいと思います」。  
ヒトの歯と歯周組織の構造についての  
一通りのレクチャーに続き、右ページの  
ような頭蓋骨写真が画面に映し出され

る。「左側は歯のある有歯顎(ゆうしがく)がく)。右側が歯を全て失って一定期間経  
過した無歯顎(むしがく)と呼ばれる顎  
の骨です。左と右を見比べてみると、  
単に歯があるかないかだけの形の違い  
ではないということがわかると思いま  
す」。歯を失った後の上顎、下顎の形状が  
どのように変化していくのか、頭蓋骨の  
側面、断面の画像や模式図を示しながら  
田松先生は丁寧に解説を進める。歯  
を失った上下の顎は、時間が経過すると  
骨が吸収され、顎骨は半分から3分の1  
程度の高さになってしまふという事実  
に驚かされる。「歯が無いから入れ歯を  
入れたいのに、歯が無いから骨も無い。  
そうなるに入れ歯も安定しづらく、痛み  
が出ることもあります。不幸にして歯  
を失った場合は、早い時期にブリッジや  
入れ歯、インプラントなどで補うとも  
に噛み合わせを維持し、顎の骨に力を  
加える必要がある、と田松先生。「自分の  
歯を大切に、高齢になっても顎の骨  
を維持してほしい」というところが一番  
伝えたいことです」

### 歯を支える骨のミニ

頭蓋骨写真の合間には「お目々直し  
に」と、愛くるしい田松家の愛猫の写真  
が挟まれ、後半では「骨」そのものの性質  
についての講義が行われた。「全身の骨

は一般的に加齢とともに骨量が低下し  
ますが、顎の骨は、年齢によるものより  
も歯の有無、力がかかっているかどうか  
という力学的な環境に速やかに適応す  
る。他の骨に比べてターンオーバー(代  
謝回転)が速いという傾向もあります」。  
だから、仮に歯を失ったとしても、顎骨  
には噛む力をかけることが不可欠なの  
だ。「歯を失って力がかからなくなると  
骨は存在意義を失い、その部分の骨は吸  
収され、溶かされてしまいます。実際に  
は複雑な生化学的反応が起こるのです  
が、そんなイメージです」。骨は、体を支  
える硬い支柱であるばかりではなく、カ  
ルシウムやリンといった栄養の貯蔵庫  
であり、つねに形成と代謝を繰り返して  
いるダイナミックな器官なのである。  
「今のところヒトの歯を超える人工的な  
歯はありません。歯槽膿漏や虫歯で歯  
を失うのは、あまりにももったいない。到  
達目標のその先は、自分の歯を大切にし  
ようという話です」。歯科医の先生が最  
も伝えたいポイントが再度強調された。

### 歯学部での 教育・研究を伝えたい

「口と顔の科学」の授業目的は、歯科医  
学に関する幅広い一般教養を習得し、健  
康への関心を深めること。同時に、本学  
歯学部における最先端の教育・研究や

歯科治療を広く知ってもらいたい、と田  
松先生は話す。「歯学部では虫歯や歯周  
病の治療だけではなく、20の研究室が矯  
正学や舌がんなど、多岐にわたる研究  
治療に携わっています。また、口腔外科  
では自治体との協力の下、各地で口腔が  
ん検診や講習会などの地域貢献活動に  
も取り組んでいます」。高齢化が進むに  
伴い、医学における歯学の役割も注目さ  
れる現在、本学歯学部では医歯学連携  
を見据えた教育・研究活動を進めてい  
る。「高血圧や糖尿病、心臓病など基礎疾  
患のある患者さんへの歯科治療は、全身  
疾患についての知識が不可欠となつて  
います。歯を一本抜く場合も、薬を出す  
場合も、患者さんの持病を知って対応す  
る必要があります。幅広い医学的知識の  
習得に加え、頭から爪先まで全身の解剖  
実習を行っているのも本学歯学部の教  
育・研究の特長です」。授業を機に、歯学  
部や歯科医への興味関心を持ってもら  
えたら嬉しい、と田松先生は結んだ。



田松 裕一(たまつ・ゆういち) 教授

鹿児島大学 医歯学域歯学系 医歯学総合研究科 先進  
治療科学専攻 神経病学講座

[学位] 博士(歯学) 東京歯科大学, 1994年01月

[所属学会] 日本骨形態計測学会、顎顔面バイオメカニ

クス学会、歯科基礎医学会、日本解剖学会

[研究テーマ] 骨形態計測、生体力学、肉眼解剖学

# BOBOG INTERVIEW

自分のため潤沢に時間を使える学生時代、  
興味のあることは、とことん追求してください。  
寄り道のような経験も、いつか役に立つものです。

先輩からのメッセージ

撮影：溝部佑樹

イラストレーター／絵本作家 原口 敦子(はらぐち あつこ)

鹿児島県出身。2003年 鹿児島大学法文学部法政策学科（現・法経社会学科法学コース）入学。  
2007年 同学科卒業、九州電力入社（～2012年）。2014年 桑沢デザイン研究所ビジュアルデザイン科卒業。イラストレーター／絵本作家として活躍中

Instagram @atsuhara87



# 単

行本や月刊誌、企業パンフレットなど幅広い

媒体で活躍する原口敦子さん。子どもの頃から数々の絵画コンクールで受賞する画才に恵まれながら、大学では美術ではなく法学を選択しました。「絵で生計を立てられるのは一握りの芸術家というイメージがあり、職業にできるとは思っていませんでした。女性でも定年まで勤められる手堅い仕事に就こうと考え、就職の武器になりそうな法律を専攻しました」

学生時代は恩師や友人に恵まれ、楽しく充実していましたが、一方で悶々とする気持ちも拭えませんでした。「それが何なのかわからなくて。工学部や教育学部の授業を覗いたり、ドイツ語演習や英語劇の授業を受けたり……。本もたくさん読みました。一つずつ確かめては消し、なにかを探し続けていた学生時代でした。はつきりした答えはつかめなまま、卒業後は電力会社に就職。営業や人事採用などに携わりました。

定年まで勤める予定だった

原口さんの心境が変わったきっかけは2011年3月の東日本大震災。「先のことと計算して手堅く選択する生き方をやめ、好きなことをして生きようと決めました。東京でグラフィックデザイン勉強のため、桑沢デザイン研究所を受験。翌年には会社を辞めて上京。学校に通いながらデザイン事務所働き、感性と技術に秀でたクリエイター集団のなかで、基礎から実践まで吸収しました。「デザインはアーティスト個人の作品制作というより、社会の課題を解決したりクライアントの思いを形にしたりする表現法。社会人経験のある私にとっては共感できるものがありました」。デザインを手がける中で、本当は絵本作家になりたいという自分の気持ちに気づき、イラストレーション塾で研さんを積み、絵本作家としての歩みを進めてきました。

「私より絵が上手な作家はいくらでもいます。でも、例

えば歴史絵本では正確な時代考証も重要です。学生時代、難しい法律書や本を読み、勉強したせいとか、資料を調べたり学んだりすること

が苦ではありません。それは今の仕事の強みになっています。遠回りましたが、経験はすべて無駄ではなかったと思っています。現在、5歳の男の子の子育て中という原口さん。昨春秋、コロナ禍を機に家族で福岡へ移住。子育ての傍ら、オンラインで東京の仕事を受けるライフスタイルになりました。「家事や子育てしながら絵を描く時間を捻出する今、自分だけの時間にどっぷり浸れる学生時代は贅沢だったなと。時間のある今、好きなことをとことん追求してください」と後輩にメッセージを送ります。「忙しい、とばかり言う子育ても、マイン要素のようですが、わが子は私のかげがえのないミューズ(芸術の女神)ということは確かです」と、笑顔が輝きました。



1 画材は墨、アクリルガッシュ、色鉛筆。温かく透明感のある絵を描きたいと思っています。 2 没後400年記念事業の一貫で始良市と一緒に作った「島津義弘公物語」絵本の表紙。 3 「Zero Waste Design」をビジョンに掲げる石坂産業の運営する三富今昔村のコンセプトブックの絵を担当。現地に何度も足を運び取材した。企画・制作はコトヴィア。 4 翔泳社から出版された育児書の絵を担当。装丁はアルビレオ。 5 息子と一緒に絵を描く幸せな時間。 6 学科の仲間と立ち上げたサークルの夏キャンプでの1枚。今でも大切な仲間です。



Scholar Interview

# 研究室から

★  
**林 敬人**  
教授

医歯学総合研究科 社会・行動医学講座 法医学分野



## 死後の尊厳を守り、 死者からの教えを生者に還元する

★**殺**

人事件の真相が、司法解剖の結果によって明らかになり、ドラマの世界に限らず、人の死因を明らかにすることは事件解決や事故防止への鍵となり、人の尊厳を守る上でも極めて重要なことだ。あの人気ドラマの主人公さながらに異状死体の死因究明に携わるのが法医学者・林敬人先生だ。本学の法医学研究室を覗いてみた…。

### ★法医学者の仕事

わが国では、病院以外の場所で誰も見ていない時に亡くなると、異状死として警察による検視が義務付けられている。犯罪に関わる場合もあれば、犯罪とは無関係ではあっても死因が特定できないケースもある。警察等からの依頼を受け、検死や解剖、血液・尿検査など、さまざまな手法により死因を究明するのが法医学者だ。生化学検査、薬毒物検査を担当するスタッフとともに死因究明に携わる法医学者が林先生。県内唯一の法解剖医



### とが法

### 医学の目的の一つ

だ。年間150件前後の執刀とAi(オートプシー・イメージング)死亡画像診断)専用のCTによる画像検査200件余りを手掛け、授業や啓発活動と併行して「ほぼ毎日」解剖室に入る。2011年の東日本大震災時には前教授の小片守先生とともに東北入りし、およそ110件の検案(遺体の死亡確認、死因や死亡時刻を総合的に判断する)に当たった経験もある。常人には想像もつかない、膨大な「死」に医学者として向き合う日々だ。

### ★死者から生者へ還元する

「本来、法医学は予防医学の分野。亡くなられたことから得られたものを生者に返すこ

### 入浴

### 死(浴室内

### 突然死)の研究

### も林先生のライフ

### ワークと言えるテーマだ。

県内では毎年約2000人の入浴死が発生していることから警察の検視室とタッグを組み、14年前から死亡時間や性別、年齢、気温などのデータを収集。このビッグデータを解析し、ことし論文を投稿している。「入浴したら危ない気温や温度差など、データから読み解くことができました。天気予報や降灰予報のような入浴死警報が実現できれば、年間2000人の入浴死を防ぐことができるんです」。正式なエビデンスとして承認されたいと発表したい、と林先生。

### ★不足する部分は お互い補い合う

日本の法医学室は人材不足という共通の課題を抱えている中、研究室では今年度1人の院生をスタッフとして採用した。「人材育成には時間がかかりますが、不足する人手を

補う手段を探す工夫も必要です」。先述したAi専用のCT装置のほか、解剖室では解剖所見を音声認識して文字や図に置換するシステムを導入。過去の全解剖記録のデータベース化にも取り組んだ。ドラマを上回るハitek技術が、鹿児島大学の解剖室にはあった。

次に目指しているのは、

フォレンジックナーシング(法的看護)への取り組み。離島など医師のいないところで亡くなるケースも多い。実地で看護師さんが行う看取りをオンラインで見ながら検

視する仕組みづくりができれば、と考えています。保健

学科の来年度のカリキュラムに、フォレンジックナーシ

ングの授業が組み込まれる予定だ。「タスクシェアという言葉

業もあります。母体が小さくてもIOTや周囲の人

材も頼って、できることを

やついでいこうと思います」。初

代ベストティーチャー最優秀

賞を受賞した法医学者は白

い歯を見せた。

※わが国の死因究明制度は、戦後、監察医制度が導入されたものの、東京、横浜など限られた都市のみの配置にとどまっている。2007年に起こった力士の暴行死を機に死因究明への機運が高まり、2020年、死因究明等推進基本法が施行。県内においても各機関から成る死因究明等推進協議会が設置され、林先生が会長を務める。

### Profile | 林 敬人(はやし・たかひと)

和歌山県立医科大学 博士(医学)2008年3月  
2008年鹿児島大学歯学部医学系 歯学部総合研究科 健康科学専攻 社会・行動医学講座 助教、2010年同講座講師、2016年 同講座准教授、2019年 同講座 教授  
■所属学会:日本法医学会、日本法医病理学会、日本温泉気候物理医学会  
■研究テーマ:○免疫組織化学 ○遺伝子発現解析 ○炎症性サイトカイン ○軸索損傷 ○虐待診断 ○入浴死



電動鋸。解剖中に開頭するのに必須の器具。法医解剖では必ず頭蓋内も検査する。



虐待で外傷を受けやすく、外見からは見落とされがちな体の部位を説明する人体模型。テレビ局の協力で製作された

## 水産物に注力して成長する 優良スーパーの経営戦略

水産学部 水産経済学分野

久賀みず保 准教授

1. appeal point

小売の実態分析をもとに、国産水産物の適正な価格形成への糸口を探っています。アプローチとして顧客作りに成功している国内各地の優良店舗事例を収集・分析。データに基づき、流通・販促のあり方を模索する漁業団体や産地、企業への情報提供、販売戦略策定に関するアドバイスをいたします。

2. appeal point

水産物の流通・販売に貢献する人材教育に注力しています。水産・食品業界の流通、販売の現場体験また四季折々の魚食体験を通じ、将来にわたり水産物の流通・販売および政策立案に資する「プレーヤー」の育成を目指しています。



### アピールポイント

#### 【水産物と消費者の接点である「小売り」の重要性に着目し、成功事例に学ぶ。】

水産業は、産業として採算性を度外視することはできません。その上でコスト削減と適正な価格の形成が重要です。コスト削減については漁業・養殖技術分野において研究が進められています。一方、適正な価格形成の形成については、今後の水産流通学の命題となっています。適正な価格形成なくしては漁業者の収入の低減、後継者不足という事態が解消されることは期待できません。また、価格の適正な設定と同時に求められることは、小売り現場において水産物の価値と魚食の意義、楽しみを消費者に伝える機会の創出であると言えます。近年、国産水産物販売に注力し売り上げを大きく伸ばしている地域密着型食品スーパー(Super Market:SM)が注目を集めています。私たちは全国各地の優良SMにおけるリサーチを通じ、水産物の優良顧客獲得を実現する条件を抽出し、水産物小売りのあるべき姿を見通す研究を行っています。

### 研究の背景

#### 【優良スーパーの企業原理を収集・分析、情報発信することで、国産水産物の顧客作りを実現】

国産水産物販売に注力することにより大きく販売実績を伸ばしているSMの企業行動についてはほとんど明らかにされていませんでした。当研究室では、国内各地の優良SMの調査、分析の蓄積により、多様な戦略を明らかにしてきました。対面販売の強化、個店経営、地産地消及びプライベートブランド商品開発による商品の差別化、加工機能強化による高付加価値化、また港から店舗までを一元的に運営する垂直的統合、卸売市場との連携強化などがそれぞれです。これらの企業行動をさらに分析することにより、国産水産物の優良顧客獲得を実現する条件をさらに明らかにしたいと考えています。併せて、水産物の流通・販売および政策立案に貢献できる人材育成、市民への啓発活動、情報発信も行っています。

# 取り組み事例



## 家庭料理にもっと魚を —忙しい人向け魚食のススメ—

子をもつ同世代や若年層の魚食普及を目指し、SNSでの情報発信に取り組んでいます。「今日の献立にできる魚メニュー」を目指し、「時短」と「子供ウケ」をキーワードに、日常のリアルな買い物 & 食卓情報を提供しています。魚は手間がかかる？調理が難しい？子供が喜ばない？そんなことはありません。料理が得意でなくても、子育てに追われていても、フルタイムで忙しくても、少しの情報と知識でおいしく簡単な魚食ライフが送れることを身をもって証明しています。詳しくはInstagram seafoodlaboまで。



## 水産行政への参画

研究活動を通じて国や自治体、漁業関連団体や食品関連企業などと密接に交流し、様々な形で地域社会や国家的な水産業振興に貢献しています。例えば、水産庁水産政策審議会委員、水産庁漁業センサス研究会委員、熊本海区漁業調整委員会委員、鹿児島市中央卸売市場整備検討委員会委員などです。現在は、福岡市水産業振興審議会の流通分科会の会長を拝命しています。流通研究の蓄積に基づいて、流通改善策や消費促進の方策を提案し、現実の水産政策に反映させています。



## 水産流通スペシャリスト の育成

私が運営する水産流通学研究室は、豊かな「食」を通じて人々に喜びと幸せを届けたいという理念と使命感を持ち、水産流通業界で活躍できる人材の育成を目指しています。動物性たんぱく質供給源として人間に必要な水産物であるため、その価値を正しく評価し、伝達できる人材は社会から強く求められていますが、そのような人材教育の場は非常に少ないのが現状です。当研究室は水産流通教育No.1を自負しており、現場体験と即戦力となる知識の提供を重視しています。多くの卒業生が水産流通を中心とする食品関連産業に希望通り就職し、幅広く活躍しています。

### Profile

- 2000年3月 近畿大学農学部国際資源管理学科 卒業
- 2005年3月 広島大学大学院生物園芸科学研究科博士課程修了
- 2007年10月 鹿児島大学農水産獣医学域水産学系 水産学部水産学 水産経済学分野、助教
- 2016年5月 鹿児島大学 農水産獣医学域水産学系 水産学部水産学 水産経済学分野准教授

くことが私の使命だと考えています。

また、現代の簡便性を求める顧客ニーズを反映し、水産加工品が売れる時代となっています。そこで近年はかつお節やサバ缶詰など、水産加工業の実態分析にも注力しています。今後、より水産物が売れるよう小売りを改革すべきであり、また水産物の付加価値を高める水産加工業が発展していくべきだと考えます。それらを実現できる人材を輩出していくことが私の使命だと考えています。

ところが現代の小売業は、効率化を追求するあまり、規格化や定番商品化を進めてきました。その結果、季節性や多様性に富んだ水産物を扱う能力を失いつつあります。しかし、中には水産物の魅力をきちんと伝えることで、利益を上げている小売業者も存在します。そうした優良事例を分析することで普遍的な条件を整理し、広めることは水産業にとって非常に重要なことです。

特に重要なのが小売りです。水産業の目的は、生産物の価値を市場において実現しその対価を得ることにあります。対価を支払うのは顧客（一般消費者）だけであり、顧客と唯一接点をもっているのが小売りです。顧客と直接的に結びつく小売りだけが、顧客の需要をつかみ、付加価値を生み出す最前線となり得るのです。従って小売りにおける顧客作りの機能次第で、消費者の購買行動や支払い意思のあり方は変わります。

発展といえるでしょう。



水産業とは生産から消費までを含みます。生産は天然資源を対象として以上、成長は見込めません。付加価値を生み出せるのは流通・加工部門しかなく、水産業の発展とは流通・加工部門の

水産学部 水産経済学分野  
久賀みず保（がみずほ） 准教授

鹿大メッセージ  
水産経済研究における流通・加工部門の重要性

## ・オンラインシンポジウム「『COVID-19禍の世界』閉ざされる境、つながる技術、共に創る未来」を開催

3月9日、グローバルセンターは、大学の世界展開力強化事業オンラインシンポジウム「『COVID-19禍の世界』閉ざされる境、つながる技術、共に創る未来」(セッション2)を開催しました。

シンポジウムは、「閉ざされる境」「つながる技術」「共に創る未来」のいずれかのテーマで、Web上でビデオ発表とディスカッションを行うセッション1と、Web会議サービスZoomを利して行うセッション2の2部立てで行われ、同事業の海外連携18大学及び国内他大学の学生、教職員など国内外から約180名が参加登録しました。セッション2では、ゲストスピーカーとしてWHO西太平洋地域事務局の野崎 慎仁郎氏を特別講師としてお招きし、「WHO西太平洋地域のCOVID-19の状況とWHOの対応」と題して講演会を開催しました。

また、大学の世界展開力強化事業の参加教員による事業報告もあり、COIL(オンライン国際協働学習)等の可能性や問題点について意見交換を行いました。COVID-19禍での大学生活やCOILによる海外学生との学び、これらの経験を今後活かす方法等について、学生の活発な発言もあり、「共に創る未来」の新たな国際協働学習の形について考える有意義な機会となりました。



## ・鹿児島大学と日本航空株式会社、日本エアコミューター株式会社が包括連携に関する協定を締結

3月16日、鹿児島大学事務局4階特別会議室にて、鹿児島大学と日本航空株式会社、日本エアコミューター株式会社は、包括連携に関する協定を締結しました。

本協定は、2020年10月に締結した「地域密着型パイロット人財の創出を目指す連携協力協定」に続き、三者の人的・知的資源の交流と活用を図りながら、教育、研究等の分野において相互に連携・協力し地域社会の振興と発展に資するとともに、教養豊かな国際人材育成に寄与することを目的としたもの。

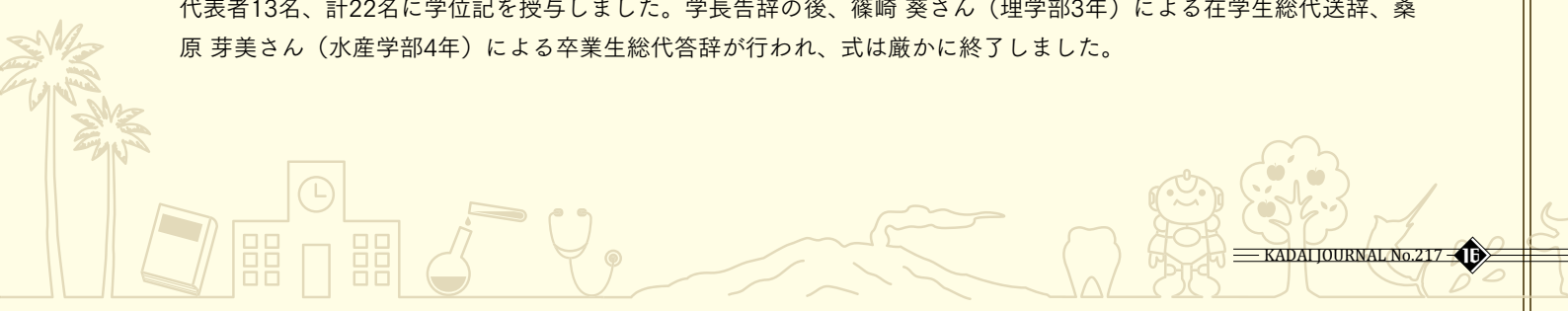
締結式では、佐野 輝学長と日本航空株式会社平井 登九州・山口地区支配人、日本エアコミューター株式会社越智 健一郎社長が協定書に署名、その後それぞれから挨拶があり、教育・地域貢献・国際交流の事業において3者が力をあわせ教育、研究および文化の発展を目指すこと、地域社会の貢献を目指していくことなどが発表されました。今後、本協定により、幅広い分野で連携協力しながら、地域活性化に資する取組を推進していくこととしております。



## ・令和2年度卒業式・修了式を挙行

3月25日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和2年度卒業式・修了式を挙行しました。今年度の卒業・修了生は、学部卒業生1,931名、大学院修了生538名の計2,469名。今年度は昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各学部及び各研究科の各課程の代表者が出席の下、規模を大幅に縮小し、実施。また、ご来場いただけない卒業生・修了生、新入生及びご家族の皆さまのために、式典の様子をYouTubeによりライブ配信を行いました。

式では、佐野 輝学長が、各学部の代表者9名、各修士課程・各博士課程の代表者13名、計22名に学位記を授与しました。学長告辞の後、篠崎 葵さん(理学部3年)による在學生総代送辞、桑原 芽美さん(水産学部4年)による卒業生総代答辞が行われ、式は厳かに終了しました。





## ・令和3年度入学式を挙行

4月7日、鹿児島大学事務局4階特別会議室において、令和3年度入学式を挙行しました。今年度の入学生は、学部入学生1,918名、大学院入学生608名の計2,526名。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各学部及び各研究科の各課程の代表者が出席の下、規模を縮小し、実施。また、ご来場いただけない入学生及びご家族の皆さまのために、式典の様子をYouTubeによりライブ配信しました。

式では、佐野 輝学長による入学許可の後、学部と大学院それぞれを代表し、池袋 日香莉さん（水産学部）と MOHAMMAD FARID RATMAN さん（大学院医歯学総合研究科）の2名が入学生宣誓を行いました。

続いて佐野学長は告辞で、入学生に祝意を表するとともに、現在人類にとって大きな試練となっている新型コロナウイルス感染症に触れ、「[知の力]をもって地球レベルの困難に立ち向かう人材として育ててほしい。将来、鹿児島の地でそして鹿児島大学で学んだことに自信と誇りを持って、鹿大生として充実した日々を送ることができるよう願っています。夢を持ち、実現に向けて努力を行い、鹿児島から世界に羽ばたいてください。」とエールを贈りました。

入学生宣誓を行った池袋さんは、「これから一緒に勉強する同級生と入学式に出られなかったのは寂しいですが、入学式を開催していただいたことに感謝します。」と述べました。



## ・大阪府へ看護師を派遣

4月30日、鹿児島大学病院は大阪府への看護師の派遣に関する壮行会を挙行しました。今回の派遣は、文部科学省からの派遣要請に基づき、医療体制がひっ迫している大阪府への派遣を行うもの。派遣するのは本学ICU（集中治療部）に勤務する人工呼吸器等の使用経験豊富な村田奈穂看護師。

壮行会では、坂本泰二病院長が「危険を顧みず、自ら手を挙げていただき、深謝しています。大阪府のために必ず貢献してくれると期待しています。」と激励の挨拶を述べ、村田看護師は「少しでも支援をしたいと思って希望しました。微力ながら医療従事者や大阪府の方々の助けをしたいと思っています。」と力強い抱負を述べました。



## ・日本初! ニホンイトヨリを確認

総合研究博物館とかごしま水族館の研究チームは、種子島で採集されたイトヨリダイ科魚類をニホンイトヨリと同定、日本初の確実な記録として、日本魚類学会発行の魚類学雑誌に報告しました。

ニホンイトヨリ *Nemipterus japonicus* は学名の種小名が日本を意味する「japonicus」、標準和名にもニホンが含まれますが、これまで日本国内からの確かな分布記録は知られていませんでした。*Nemipterus japonicus* は1791年にドイツの魚類学者によって、日本産と誤認された標本に基づき新種として記載されました。200年以上前のヨーロッパの人々にとって日本は遠く離れた未知の場所であり、日本を含むアジア帯の認識は曖昧であったようです。なお、後の研究によりこの標本の産地は日本ではないことが明らかになり、現在ではインドネシアのジャワ島周辺で採集された標本である可能性が高いと考えられています。また、日中戦争の最中である1938年に日本の魚類学者により *Nemipterus japonicus* に対してニホンイトヨリという和名が付けられましたが、この時も日本における分布の根拠は示されませんでした。

ニホンイトヨリは台湾や東南アジア各地では重要な水産資源となっており、個体数も多いものの、これまで国内で採集された確かな記録はありませんでした。本研究で報告された標本は、種子島在住の美座忠一さんにより総合研究博物館に寄贈されたものです。



CONTENTS

特集 2

鹿児島大学のIR  
(Institutional Research)  
～経験からエビデンススペースへの  
転換による大学改革～

潜入ポ ～学びの部屋～ 8

「口と顔の科学」  
(共通教育科目)  
医歯学域歯学系 医歯学総合研究科  
先進治療科学専攻 神経病学講座  
田松 裕一 教授

先輩からのメッセージ 10

イラストレーター／絵本作家  
原口 敦子さん

Scholar Interview ～研究室から～ 12

医歯学総合研究科 社会・行動医学講座  
法医学分野  
林 敬人 教授

知のタネ 14

水産物に注力して成長する  
優良スーパーの経営戦略  
水産学部 水産経済学分野  
久賀 みず保 准教授

鹿大トピックス 16

オンラインシンポジウム『COVID-19  
禍の世界』閉ざされる境、つながる技  
術、共に創る未来』を開催  
ほか

進め! 鹿大生 19

工学部 情報生体システム工学科3年  
車いすバスケットボールチーム  
「薩摩ぼっけもん」で活躍する  
上大田 龍真さん

鹿大プラス 20

竹無臭(タケムシュー)

・「学生が選ぶインターンシップアワード」  
文部科学大臣賞受賞!

5月18日、「第4回学生が選ぶインターンシップアワード(同実行委員会主催、経済産業省・文部科学省・マイナビ等後援)」オンラインカンファレンスが開催され、本学の「課題解決型インターンシップ」が文部科学大臣賞を受賞しました。



受賞した「課題解決型インターンシップ」は、キャリア形成支援センターが年間を通して実施する、全学年の学生を対象としたインターンシップ。

2020年度は、県内29の事業所による36のプログラムを用意し、うち11のプログラムに20名の学生が参加、コロナ下においても全員が10日間のプログラムを終えました。同センターは、学生・受け入れ先と密に連携しながら、インターンシップ中だけではなく事前学習から事後の成果報告会・振り返りまでをフォローアップしている他、新たにガイドブックを作成し配布するなど、学生のインターンシップを長期的にサポートする体制を整えています。

・新型コロナウイルスワクチン職域接種を開始

本学では、6月24日、新型コロナウイルスワクチンの職域接種を開始しました。



接種対象は、学生・教職員及び構内で勤務する全ての構成員で接種を担当するのは、鹿児島大学病院の医療従事者(医師、歯科医師、看護師)ら。初日は、事前予約を行った100名が、会場の第二体育館(郡元キャンパス)を訪れ、ワクチンを接種しました。

読者アンケートのご協力をお願い!

本誌に関する皆様からの率直なご意見・感想についてお待ちしております。アンケートはこちらから!



**鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い**  
鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むため、鹿大「進取の精神」支援基金を創設し、寄附のご協力を願っています。つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。  
なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。  
【お問い合わせ先】 鹿児島大学総務課基金・渉外係  
TEL:099-285-3101 FAX:099-285-3854  
E-mail: s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp  
基金ホームページ: https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/

**鹿児島大学 リサイクル募金**  
読み終えた本などのリサイクル品でご支援ください  
詳細・お問い合わせ  
鹿児島大学 リサイクル募金  
☎0120-29-7000 (受付) 9~18時・365日  
運営協賛: リサイクル基金さしゅぼん(盛博野株式会社)

つらい時もあるけど、今できることを一生懸命頑張ったら、きっとチャンスは巡ってくる

# 進め! 鹿大生

工学部 情報生体システム工学科3年  
車いすバスケットボールチーム「薩摩ぼっけもん」で活躍する

## 上大田 龍真 さん

Ueohta Ryuma

上大田さんが車いすバスケットボールと出会ったのは高校2年の冬。小学校6年生で発症した骨肉腫(骨に発生するがん)の治療後、度重なる感染症がようやく落ち着いた頃、体育教師の勧めで日本代表選手・藤本怜央さん(宮城マックス所属)の体験教室に参加しました。「車いすに乗って味わうスピード感、風を浴びる感覚に魅了されました」。

もともとスポーツ好きで、小学生の頃もミニバスケットチームで活躍していた上大田さん。その日を機に鹿大生として2020かごしま国体に出場するという目標を定め、受験勉強に励みました。入学後は自動車免許を取得し、一人暮らしを実現。機能しなくなっていた左足切断への決心もつきました。昨年、国体の開催延期によって大きなショックを受けましたが、心機一転、23年開催予定の国体出場へ向け歩みを進めています。

「子どもから高齢者まで幅広い年代の方と一緒に練習できる場所も車いすバスケの魅力。自分より障害の程度が重い方もたくさんいて、みんなの経験を聞く勇氣をもらえます」。試験を糧に前進する上大田さん。情報生体システム工学の知識を医療系に生かす仕事に就きたいという思いも、もう一つの原動力です。



座右の銘

「何度でも前へ」

度重なる困難に対してもめげずに、何度でも自分を持ち直して前へ進んできた経験から生まれた思いです。



オリンピック・パラリンピックを控え、県内小中学校で開催される車いすバスケ体験学習のサポートに向く機会も



より高い位置からシュートやパスを繰り出す「テイルディング」という技は、卓越したボディバランスが求められる



「間近で試合を見ると、車いすバスケの魅力を感じてもらえるはず」。風を切って走る上大田さん

鹿大プラスでは、鹿児島大学インフォメーションセンターで販売している鹿児島大学の研究・教育活動の成果として完成した商品をご紹介します。



## 環境と健康にやさしい竹炭の消臭・調湿材 「竹無臭(タケムシュー)」

竹無臭(ハンガー式)…720円税込 / 竹無臭(ミニ)…410円税込

国産孟宗竹炭を板状にしたエコ建材「カルボボード」を使った、環境と健康にやさしい“消臭材”です。木炭のおよそ3倍もの微細な穴を持つ竹炭は、悪臭の元になる多くの化学物質を強力に吸着します。さらに室内や庫内空間にある水分を吸収・放出する調湿機能を有し、空間を快適に保つ効果があります。蒸し暑い季節。冷蔵庫や冷凍庫、クローゼットなど、においや湿気が気になる場所にご活用ください！



お求め・お問い合わせ先 **インフォメーションセンター(鹿児島大学正門横)**

☎099-285-3864 開館時間:月曜日～金曜日(休日・祝祭日を除く) 9:30～16:30(昼休み13:00～14:00)

### 今号の表紙「指宿植物試験場」

1918(大正7)年、農学部の前身である鹿児島高等農林学校の附属農場として開設。年間平均気温18.3℃、年日照時間約2200時間と九州最温暖な気候の中、地熱を活用した施設加温方法を採用しマンゴー、タロイモなどの果樹・作物類のほかブーゲンビリア、プルメリア、ヤシなど多種多様な花や樹木を栽培・管理しています。暖地ならではの資源を活用し、本学では、南九州に適応性のある熱帯性果樹類の導入・利用および熱帯・亜熱帯性作物類の生態と栽培等に関する研究を手がけ、貴重な遺伝資源の保存にも尽力しています。農学部生を対象とした実習など、学生の教育・研究の場としても活用されています。



鹿大シェアブル movie  
One Minute

動画配信中！今回は  
「指宿植物試験場」